

ヒポクラテスの箴言「人生は短く，術のみちは長い」とゲーテの『ファウスト』について：感嘆詞と感嘆符の計量言語学的検討

齊 藤 博

短縮表題：ヒポクラテスとゲーテ

キーワード：ヒポクラテス，ゲーテ，ファウスト，感嘆符，計量言語学

はじめに

ヒポクラテスは紀元前 460 年頃，ギリシアのコス島の生まれで，医神，医聖とも言われ尊敬されている。ヒポクラテス関係の著述は，医術が主であるが，哲学，倫理，自然科学の全般にわたっており，後年，『Corpus Hippocraticum』（『ヒポクラテス全集』、『全集』）としてまとめられ¹⁻⁴，医学史や論考に概説が述べられている⁵⁻¹³。

ゲーテ（1749 - 1832）はドイツの文豪で，医師ではないが，ヒポクラテスを知っていたことが，自伝的作品である『詩と真実』に書かれている¹⁴。ゲーテは 24-26 歳の時，『ファウスト初稿』（Urfaust）を書きはじめ，41 歳『ファウスト断片』（Fragment）を，76 歳の時に『ファウスト』（Faust）を一度完成させたが，再度書き直し，途中の中断の時期を入れると，実に 82 歳の生涯中，60 年間と，ほぼ全生涯をかけて，書き続けている^{15, 16}。その間に，考え方も加齢により変化したと推測される。

『全集』の箴言 1-1 には，「ὁ βίος βραχύς, ἡ δὲ τέχνη μάκρη」¹（ホ ビオス ブラキユス ヘ デー テクネー マクレー）とある。「μάκρη」はイオニア方言で，現代，伝えられている古典ギリシア語では，「μάκρᾱ」（マクラー）である。この箴言のラテン語訳は，「vitam brevem esse, longam artem」¹⁷，「vita brevis, ars vero longa」¹⁰であるが，「vita brevis, ars longa」と，vero が削除されている場合もある。vero は副詞で，真に，實に，確かに，しかし，かえって，反対に，である。Jones の英訳では，「Life is short, the Art long」¹である。

日本語訳は，「人生は短く，術のみちは長い」（石渡隆司訳）²，「生命は短く，術は永遠である」（今裕訳）³，「生命は短く，学芸は永い」（二宮隆雄訳）⁹，「生は短く術は長し」（茂手木元蔵訳）¹⁸，「人生は短く，技術は長い」（柳沼重剛訳）¹⁹があるが，ギリシア語の日本語訳は難しい点がある^{11-13, 20}。箴言の前半は「生命」，または，「人生」でほぼ一致しているが，後半は，「τέχνη」を「術」とするか，「芸術」とするか，「μάκρη」を「長い」，または，「永遠」とするか，または，「なり難い」とするかで，意味の分かれるところである。

この箴言は後世，多数，引用されているが¹²，ゲーテも『ファウスト』²¹⁻²⁷ 悲劇第 I 部「夜」でこの箴言を引用している。ただし，この箴言をファウストの台詞ではなく，ワーグナーとメフィストフェレス（メフィスト）

の台詞として引用しているが、両者で異なっている。ワーグナーの台詞では、この箴言を『全集』¹とは異なり、生命と術の順序を逆転させているのに対して、メフィストの台詞では、そのままの順序で引用している。また、ワーグナーの台詞には、感嘆詞の「Ach Gott」、接続詞の「Und」と「！」が付けられているが、メフィストの台詞では、Ach Gott も、Und も、！もつけられていない。

このように、『ファウスト初稿』、『ファウスト』における「ヒポクラテスの箴言」の引用は、原典とは異なることから、前論考¹²ではこれらの点について、悲劇第Ⅰ部での「夜」と「書齋」での感嘆詞と感嘆符（！）の用法から検討したが、本論考ではその補注として、第一に『ファウスト』悲劇第Ⅰ部、第Ⅱ部全体での感嘆詞と感嘆符（！）の用法を、計量言語学的に検討し、第二に、これらの成績に基づき、引用されている「箴言」について考察した。なお、『ファウスト初稿』と『ファウスト』の差異と、「箴言」についての主要な部分は、前論考¹²を再掲した。

検討の方法

『ファウスト』と『ファウスト初稿』で、感嘆詞と！の使用数を数え、行当たりの頻度として表示し、各場面と登場人物別に比較した。1行に！を複数使用している場合も1行とし、！の複数使用数は別に数えた。

『ファウスト』は、主としてハンブルク版²¹と、手塚富雄訳¹⁵を採用したが、箴言の比較では7種類のドイツ語版²¹⁻²⁷と4種類の日本語訳^{15, 28-30}を用いた。行はハンブルク版の行番号に従い、行番号のある各行を1行とした。558は558行を、558fは558と559行を示している。

『ファウスト初稿』では曇り日の章はないが、『ファウスト』での「曇り日」に対応する部分を、『ファウスト初稿』での（曇り日）とした。「曇り日」と「牢獄 (Kerker)」の散文の部分では、ページ数と行 (例:p.137-15) で示した。

台詞の引用は、『ファウスト初稿』²¹、『ファウスト』²¹、『手塚富雄訳』¹⁵の順序で示した。『ファウスト初稿』と『ファウスト』とで対応する台詞の内容が一致した場合は不変例として、同一括弧、〔例:(Urfaust 233; Faust 586)〕で、台詞の言葉、感嘆詞、！が異なる場合は変更例 (言葉の変更 [下線を引く]、！の追加例と削除例など) は、別々の括弧、〔例:(Urfaust 205), (Faust 558)〕で示した。

感嘆詞、または、感嘆的用法としては、ach, ach Gott, ah, ah bravo, a, o, weh, he, ha, weh, topp, pfuiなどと、それらの組み合わせ (o weh など) とした³⁶。

『ファウスト初稿』と『ファウスト』悲劇第Ⅰ部とで台詞の内容が対応する箇所、！の用法が不変か、！の追加、または、削除があるかを調べた。さらに、「箴言」が引用されている箇所である『ファウスト初稿』「夜」1-248と、『ファウスト』悲劇第Ⅰ部「夜」354-605では、！の位置が行末にあるか、行末以外にあるか、また、！はどの語につくかを検索した。

複数行の台詞では、それぞれの行の最終語を行末とした。『ファウスト初稿』195-196, 200, 215と、『ファウスト』502, 547-548, 550-551, 597-602では、両者の間に対応する台詞がないので、この検索からは除外した。

カタカナ表記は引用に従ったので、引用個所により異なる場合がある (例:ワーグナー, ヴァーグネル, ヴァーグナー, ワグネル:ヒポクラテス, ヒッポークラテス)。考察での注釈, 原典の引用は「」を付けた (例:「」 (注釈者名^{15, 28-35}); 「Ach Gott!」, 「!」)。

〔 〕は著者の補足説明である。

成績

ゲーテはヒポクラテスの箴言を、ワーグナーとメフィストの台詞として引用していたが、版により異なっていた。

Wagner. Ach Gott! die Kunst ist lang,
Und kurz ist unser Leben. (558f)²¹⁻²⁵

Wagner. Ach Gott! die Kunst ist lang!

Und kurz ist unser Leben.^{26,27}

ワーグナー ああ！芸術はながく

人生はみじかしでございます。(手塚富雄訳)¹⁵

『全集』¹では人生、術の順序であったが、ワーグナーの台詞では、術と人生の順序が逆であり、感嘆詞の“Ach Gott”，接続詞の“Und”と、行末に！が付けられていた。ハンブルク版²¹，記念版²²，ゾフィー版²³，国立文学史家版²⁴，袖珍版²⁵は、「Ach Gott!」の1箇所のみ！がつき、「lang,」には！はついていないが、ブレマー版²⁶とレクラム文庫版²⁷では、「Ach Gott!」と「lang!」の2箇所に！がついていた。

『ファウスト初稿』では、

Wagner. Ach Gott, die Kunst ist lang

Und kurz ist unser Leben! (Urfaust 205f) (ハンブルク版, ゾフィー版)^{21, 23}

Wagner. Ach Gott, die Kunst ist lang,

Und kurz ist unser Leben ! (記念版, 国立文学史家版)^{22, 24}

『ファウスト初稿』と『ファウスト』とでは、台詞は同じであったが、！の位置が異なり、『ファウスト初稿』では「Leben !」に付けられた行末の！が、『ファウスト』では削除され、行末以外のAch Gottに！が追加されていた。

また、『ファウスト初稿』では「lang」と「lang,」、『ファウスト』では「lang,」と「lang!」と版により異なり、結局、「lang,」「lang,」,「lang!」の三つがあった。

メフィストの台詞は、

Mephistopheles. Die Zeit ist kurz, die Kunst ist lang. (Faust 1787)²¹

メフィスト つまり、人生はみじかしだ、芸術は長いがね。(手塚訳)¹⁵

メフィストの台詞では、「unser Leben」が「die Zeit」になっているが、手塚訳¹⁵，大山訳³⁰は「人生」，相良訳²⁸，高橋訳²⁹は「歳月」と訳していた。「Leben (Zeit)」と「Kunst」の順序は、『全集』¹と同じ順序で引用されており、感嘆詞と！はつけられていなかった。

『ファウスト』の感嘆詞、感嘆符の用法について

『ファウスト』での感嘆詞は、190箇所、行当たりでは12,233行の2%、！は1969箇所、1,764行で14%、！の複数使用は205行(2箇所173, 3箇所25, 4箇所7)2%で、第I部が第II部より高頻度(X2検定, $p < 0.01$)であった。悲劇第II部では、第I幕からV幕までの感嘆詞と！の頻度はほぼ等しい。

学者としてのファウストの認識の悲劇である前半¹⁵(1～2072: 捧げる言葉～悲劇第I部夜～書齋)と、グレートヒェンの悲劇からなる後半¹⁵(2073～4612 : ライプチヒのアウエルバッハの酒場～牢獄)との比較では、！は後半は前半より高頻度で、「牢獄」でのファウストは最高頻度で、「捧げる言葉～天上の序曲」が低かった(表1)。

マルガレーテ(24%)は高く、メフィスト(13%)は低かった。ファウストの！の頻度は17%であったが、悲劇第I部後半(29%)は、前半(15%)より高頻度であったが($p < 0.01$)、第II部は低頻度であった(11%: 対前半, $p < 0.05$)。ワーグナーの！の頻度は、第I部書齋では13%と低かった。

その他の登場人物の！の頻度は、悲劇第I部(平均20%)では、魔女(39%)、酒場の学生(35%)が高頻度であった。第II部(平均11%)では、酔いどれ(36%)が高頻度であった。一方、第I部では道化(5%)、座長(7%)、書齋での学生(7%)、主(9%)が、第II部では、ヘレナ(8%)、皇帝(9%: 第I幕10%, 第IV幕9%)、道化たち(0%)が低頻度であった。(表2)。

座長、主、メフィストのこれらの有名な台詞には、感嘆詞も感嘆符も付けられていなかった。

Direktor. Was heute nicht geschiet, ist morgen nicht getan, (Faust 225)

表1 『ファウスト』の各場面での感嘆符、感嘆詞の頻度

『ファウスト』	行数	！の行数 (%)	！の複数使用 (%)	感嘆詞 (%)
悲劇第Ⅰ部 (1~4612: 捧げる言葉~天上の序曲を含む)				
捧げる言葉~天上の序曲	353	24 (7)	1 ()	3 (1)
夜 (354~807)	454	78 (17)	7 (2)	16 (4)
夜 (354~605) *	252	56 (22)	7 (3)	10 (4)
市門の前	370	50 (14)	10 (3)	16 (4)
書齋Ⅰ (1178~1529)	352	58 (16)	4 (1)	3 (1)
書齋Ⅱ (1530~2072)	543	67 (12)	1 ()	5 (1)
書齋Ⅱ*	119	11 (9)	1 (1)	1 (1)
アウエルバッハの酒場	264	87 (33)	15 (6)	12 (5)
魔女の厨	266	61 (23)	6 (2)	9 (3)
街	73	13 (18)	0	0
夕	127	34 (27)	3 (2)	5 (4)
散歩	60	15 (25)	1 (2)	1 (2)
隣の女の家	160	45 (28)	7 (5)	17 (11)
街	48	11 (23)	3 (6)	2 (4)
庭、庭の中の小屋	144	37 (26)	2 (1)	8 (6)
森と洞窟	157	27 (17)	1 (1)	2 (1)
グレートヒェンの部屋~庭	171	23 (14)	1 (1)	5 (3)
井戸のほとり~小路	76	23 (30)	2 (3)	6 (8)
夜	215	44 (20)	4 (2)	2 (1)
聖堂	59	16 (27)	3 (5)	3 (5)
ワルブルギスの夜	388	76 (20)	7 (2)	5 (1)
ワルブルギスの夜の夢	176	22 (13)	1 (1)	1 (1)
曇り日~夜広野 (別番号)	68	24 (35)	10 (15)	0
牢獄	211	90 (43)	25 (12)	8 (4)
悲劇第Ⅰ部小計	4735	925 (20)	114 (2)	130 (3)
悲劇第Ⅱ部 (4613~12111)				
第一幕 (皇帝の居城 **)	1953	220 (11)	33 (2)	14 (1)
第二幕 (中世風の実験室)	1920	275 (14)	29 (1)	17 (1)
第三幕 (ヘレナ劇)	1551	129 (8)	12 (1)	15 (1)
第四幕 (高山)	1004	86 (9)	7 (1)	8 (1)
第五幕 (埋葬)	1070	129 (12)	10 (1)	6 (1)
悲劇第Ⅱ部小計	7498	839 (11)	91 (1)	60 (1)
総計	12233	1764 (14)	205 (2)	190 (2)

* 『ファウスト』と『ファウスト初稿』とが対応する部分、** (主な場面)

表2 『ファウスト』 悲劇第Ⅰ部の主要登場人物の台詞：感嘆符，感嘆詞の頻度

主要登場人物	行数	！行数（％）	！の複数使用（％）	感嘆詞（％）
ファウスト	2133	363 (17)	54 (3)	50 (2)
Ⅰ部計	1231	261 (21)	37 (3)	39 (3)
前半	724	112 (15)	11 (2)	23 (3)
後半	507	149 (29)	26 (5)	16 (3)
Ⅱ部	902	102 (11)	17 (2)	11 (1)
メフィスト	2709	347 (13)	37 (1)	24 (1)
Ⅰ部計	1165	174 (15)	17 (1)	16 (1)
前半	502	49 (10)	1 (1)	2 (1)
後半	663	125 (19)	16 (2)	14 (2)
Ⅱ部	1544	173 (11)	20 (5)	8 (1)
マルガレーテ	492	118 (24)	25 (5)	26 (5)
ワーグナー	171	24 (14)	2 (1)	7 (4)
Ⅰ部	108	14 (13)	1 (1)	5 (5)
Ⅱ部	63	10 (16)	1 (1)	2 (3)
座長（Ⅰ部）	96	7 (7)	0	1 (1)
詩人	58	6 (10)	1 (2)	2 (3)
道化（Ⅰ部）	56	3 (5)	1 (2)	0
道化達（Ⅱ部）	22	0	0	0
学生（Ⅰ部）	54	4 (7)	0	1 (2)
得業士（Ⅱ部、元学生）	89	13 (15)	1 (1)	0
主	33	3 (9)	0	0
歌（農民、兵士、乞食）	59	16 (29)	8 (14)	6 (10)
コーラス（使徒、天使）	41	7 (17)	0	2 (5)
酒場の学生4人	188	66 (35)	12 (6)	8 (4)
マルテ（隣の女）	85	22 (26)	8 (9)	10 (12)
ヴァレンティン（兄）	90	25 (28)	2 (2)	2 (2)
魔女	28	11 (39)	4 (14)	3 (11)
ヘレナ	298	23 (8)	7 (2)	2 (1)
オイフォリオン(子供)	93	15 (16)	1 (1)	0
皇帝（Ⅱ部、1,4幕）	311	27 (9)	1	1
酔いどれ（Ⅱ部）	28	10 (36)	0	0
少年御者	76	10 (13)	0	0
ヘロルド（式武官）	244	23 (19)	2 (1)	4 (2)
ホムンクルス（人造人間）	142	20 (15)	0	0
前半：1~2072	（捧げる言葉～悲劇第Ⅰ部夜～書齋）			
後半：2073~4612	（ライプチヒのアウエルバッハの酒場～牢獄）			

座長 今日できないようなら明日もだめ、(手塚訳¹⁵) (以下、手塚訳¹⁵は省略)。

Der Herr. Es irrt der Mensch, solang' er strebt. (Faust 317)

主 人間は努力するかぎり迷うものだ。

Mephistopheles. Grau, teurer Freund. ist alle Theorie,

Und grün des Lebens goldner Baum. (Urfaust 432f; Faust 2038f)

いいかい、きみ。すべての理論は灰色で、

みどりに茂るのは生命の黄金の樹だ。

第Ⅰ部の大人しい学生 (Schüler) は、第Ⅱ部第Ⅱ幕では得業士 (Baccalaureus) となっているが、弁舌爽やかで、第Ⅰ部での！の頻度は7%であるのに対して、第Ⅱ部では、15%と高かった〔！の頻度平均：第Ⅰ部20%、第Ⅱ部11%〕。

第Ⅰ部では、道化の！の使用頻度は低く、使用箇所は道化の陽気な場面ではない。道化 (Lustige Person, 陽気な人) 自身は、決して陽気ではない。

Lustige Person. Doch, merkt euch wo! nicht ohne Narrheit hören! (Faust 88)

でも忘れちゃいけませんぜ、おどけというやつをつけることも。

第Ⅱ部第Ⅰ幕で、南國風 (ローマ、フィレンツェ) の陽気な謝肉祭の仮装舞踏会での道化たちの台詞 (Pulcinelle; Policinello: わざわざイタリア語を使っている、道化役者) にも、！を用いていない。

！の使用例としては、！を行末につけて、文の意味を強調する、また、命令形につける場合があった (Faust 224, 323, 418)。

Direktor. Nun braut mir unverzüglich dran! (Faust 224)

さっそく醸造にかかってください。〔命令形〕

手塚訳¹⁵では、「！」は、「。」であった。

感嘆詞は、O (O weh, O Tod を含む) が最も多く、次いで、Ach (Ach Gott を含む) であった。O は市門の前、牢獄、第Ⅱ部で多かった。ファウストはOが、マルガレーテはAchが多かった。Ach:Ach! は、27:28 = 1:1 で、ファウストはAch! が、マルガレーテはAchが多かった (Faust 485, 2919, 2945)。

Faust. O sähst du, voller Mondenschein, (Urfaust 33, Faust 386)

ああ、照りわたる月よ、(おまえがこの苦しみを照らすのも、)

Faust. Ach! nach des Lebens Quelle hin. (Faust 1201)

ああ、生のながれ、生のみなもとへと、

Faust. Ach, wenn in unserer engen Zelle (Faust 1194)

ああ、この狭い書齋に

1194は、悲劇第Ⅰ部前半のファウストの台詞中、唯一、achに！が付けられていない台詞であった。

Margarete. Ach nein, das geht jetzt noch nicht an. (Urfaust 799; Faust 2945)

とんでもない。まだとても結婚なんぞ。

Margarete. Ach! liebe Frau, verzweifelt nicht! (Faust 2919)

ねえ、おばさん。しっかりして。

Ach Gott は6箇所すべてAch Gott! で、ワーグナー (Faust 558, 6830)、マルガレーテ (Faust 2895, 2908, 4515) (Urfaust 748: Ach Gott!; Urfaust 762: Ach Gott), マルテ (Faust 2992) の台詞で、ファウストの台詞には使われていなかった。ワーグナーの台詞での感嘆詞は、Ach! (Faust 530, 1108) の2箇所、Ach Gott! (Faust 558, 6830) の2箇所、O (o) (Faust 1011, 1013, 6829) は3箇所であった。主 (Der Herr) には感嘆詞を使っていなかった (表3)。

！は感嘆詞 (ach! Ha! Weh! Ei! O! ach Gott!) につけて感情を強調する (Faust 477, 485, 872, 1256, 4423, 4515)。

表3 『ファウスト』 悲劇第I部の主要登場人物の台詞：感嘆詞の頻度

主要登場人物	ach				o	(o weh) weh	他
	総計	ach	ach!	ach Gott!			
ファウスト	15	7	8	0	31	2	2
I部計	14	6	8	0	21		
前半	7	1	6	0	12	2	2
後半	7	5	2	0	9	0	0
II部	1	1	0	0	10	0	0
メフィスト	5	3	2	0	11 (1)	1	7
I部計	4	3	1	0	5	0	7
前半	0	0	0	0	1	0	7
後半	4	3	1	0	4	0	6
II部	1	0	1	0	6 (1)	1	0
マルガレーテ	18	12	3	3	4 (1)	2	0
ワーグナー	4	0	2	2	3	0	0
I部	3	0	2	1	2	0	0
II部	1	0	0	1	1	0	0
座長	0	0	0	0	1	0	0
詩人	1	0	1	0	1	0	0
道化	0	0	0	0	0	0	0
マルテ (隣の女)	3	2	0	1	6 (1)	1	1
学生	0	0	0	0	1	0	0
主	0	0	0	0	0	0	0
歌 (農民、兵士、乞食)	0	0	0	0	0	0	8
コーラス (使徒、天使)	2	0	2	0	0	0	0
酒場の学生4人	2	1	1	0	1	1	8
I部計	48	24	19	5	43 (3)	8	33
前半	14	1	12	1	15	1	12
後半	34	23	7	1	28 (3)	7	21
II部	13	3	9	1	38 (4)	7	1
総計	61	27	28	6	81 (7)	15	34

前半：1~2072 (捧げる言葉～悲劇第I部夜～書斎)
 後半：2073~4612 (ライブチヒのアウエルバッハの酒場～牢獄)

『ファウスト初稿』と『ファウスト』での感嘆詞、感嘆符の用法の差異

『ファウスト初稿』での感嘆詞と！は、『ファウスト』より高頻度であったが、有意差ではなかった ($P > 0.1$)。 「夜」、 「書齋」で、『ファウスト初稿』と『ファウスト』とで対応する台詞(*)では、『ファウスト』の方が『ファウスト初稿』より、感嘆詞と！は高頻度であったが、有意差ではなかった ($p > 0.1$)。

「牢獄」で！は『ファウスト初稿』が『ファウスト』より高頻度であったが ($p < 0.05$)、！の複数使用の頻度には有意差は認められなかった ($p > 0.1$)。『ファウスト初稿』での！は56%で、その後半では、ほぼ、全行

表4 『ファウスト初稿』悲劇第1部の各場面での感嘆符、感嘆詞の頻度

『ファウスト初稿』	行数	！の行数 (%)	！の複数使用 (%)	感嘆詞 (%)
夜*	248	48 (19)	2 (1)	10 (4)
書齋 学生との対話	196	18 (9)	0	1 (1)
書齋*	119	4 (3)	1 (1)	0
アウエルバッハの酒場	231	70 (30)	23 (10)	6 (3)
街	73	7 (10)	0	0
夕	127	27 (21)	2 (2)	5 (4)
散歩	59	5 (8)	1 (2)	2 (3)
隣の女の家	160	29 (18)	3 (2)	16 (10)
街	46	5 (11)	1 (2)	2 (4)
庭、庭の中の小屋	141	32 (23)	2 (1)	8 (6)
グレートヒェンの部屋～庭	170	19 (11)	1 (1)	5 (3)
井戸のほとり～小路	75	17 (23)	0	5 (7)
聖堂	60	15 (25)	3 (5)	2 (3)
夜	64	15 (23)	2 (3)	1 (2)
(曇り日)～夜広野(別番号)	72	24 (33)	10 (14)	0
牢獄 (別番号)	117	65 (56)	23 (20)	4 (3)
総計	1839	396 (22)	73 (4)	67 (4)

*, 『ファウスト』と『ファウスト初稿』とが対応する部分

注: 『ファウスト初稿』では、小路、聖堂、夜(曇り日)の順序、『ファウスト』では、小路、夜、聖堂、ワルプルギスの夜、ワルプルギスの夜の夢、曇り日の順序。

に！が使用されていた(表1, 4)。

『ファウスト初稿』と『ファウスト』の悲劇第1部の台詞が対応している箇所では、どちらかに！が使用されている台詞は310行であった。！の使用法が『ファウスト初稿』と『ファウスト』で同じ台詞(不変例)は、181行、58%で、残り42%は変更例で、『ファウスト初稿』から見て、『ファウスト』での！の追加が102行、33%(追加例)、削除が27行、9%(削除例)と、追加例が多かった(表5)。

用例を示す(下線は句読点を含む言葉の変更部位と、！についての不変、追加、削除)。

Faust. Es möcht kein Hund so länger leben! (Urfaust 23)

Faust. Es möchte kein Hund so länger leben! (Faust 376) [不変例]

表5 『ファウスト初稿』と『ファウスト』悲劇第Ⅰ部の！の用法の差異

	計	削除	追加	不変
ファウスト	120	8 (7)	38 (32)	74 (62)
マルガレーテ	76	7 (9)	19 (25)	50 (66)
メフィスト	58	7 (12)	28 (48)	23 (40)
マルテ (隣の女)	22	0	7 (32)	15 (68)
リースヒェン (友人)	9	0	3 (33)	6 (67)
呵責の霊	9	0	1 (11)	8 (89)
ワグネル	7	1 (14)	4 (57)	2 (29)
霊	5	2 (40)	0	3 (60)
学生	4	2 (50)	2 (50)	0
計	310	27 (9)	102 (33)	181 (58)

注：台詞が対応する箇所のみで、アウエルバッハの酒場、夜、牢獄は除外

『ファウスト初稿』から見た『ファウスト』の差異

『ファウスト初稿』： 削除 + 不変

『ファウスト』： 追加 + 不変

こんな人生をつづけることは犬だって断るだろ。

Faust. Und seh, daß wir nichts wissen können. (Urfaust 11)

Faust. Und sehe, daß wir nichts wissen können! (Faust 364) [追加例, !行末追加]

そして知ったのは、おれたちは何も知ることができないということだけだ。

Faust. Und bin so klug, als wie zuvor. (Urfaust 6)

Faust. Und bin so klug als wie zuvor! (Faust 359) [, 削除] [!追加]

以前にくらべてちっとも賢くなっていない。

メフィストの台詞では、『ファウスト初稿』で「！」が付けられているが、『ファウスト』では「！」が削除されて、「;」に変わっている例があった。

Mephistopheles. Besonders lernt die Weiber führen! (Urfaust 417)

Mephistopheles. Besonders lernt die Weiber führen; (Faust 2023) [削除例]

とくに女性のおつかいに腕をみがかなくてはいかん。 [!→;]

同様に、「！」が削除されて、「.」に変わっている例があった。

Mephistopheres. Sie ist die erste nicht! (Urfaust Nacht 後半 p. 415-14)

Mephistopheres. Sie ist die erste nicht. (Faust 曇り日 p.137-15) [削除例]

こういう目に会ったのは、なにもあの女がはじめてじゃありませんよ。(曇り日 (12))

『ファウスト初稿』でのメフィストの皮肉に満ちた台詞の！は、『ファウスト』では、削除されている。

一方、ファウストは、メフィストと同じ台詞をこの8行後に使っているが、『ファウスト初稿』で付けられている「！」を、『ファウスト』では削除すること無く、そのまま使っている。ファウストはメフィストと異なり、この点を強調している。

Faust. — Die erste nicht! — (Urfaust p. 416・8; Faust p.137-23)

— 「あの女がはじめてじゃない」！ — (曇り日 (18))

！の用法：行末か、行末以外か

「夜」では、！は行末の使用が多かった。『ファウスト初稿』では、36 / 50 (72%)、『ファウスト』では、41 / 63 (65%) であったが、有意差ではなかった。！の変更は、行末以外の！の追加と、行末での！の削除が多い傾向であったが、有意差ではなかった(表6)。行末以外の！の追加として、AchはAch!、Ach GottはAch Gott!が認められた(表7)。！の削除例としては、行末の「!」が、「,」,「.」,「:」や、「-」となっている例があった。行末以外での！の削除例は2例のみであった。Weh! (Urfaust45; Faust398), Ha! (Urfaust 76, 125; Faust 430, 470), O Tod! (Urfaust 165; Faust 518)の用法は、『ファウスト初稿』と『ファウスト』の「夜」では同じであった。

表6 『ファウスト初稿』と『ファウスト』悲劇第1部夜での！の用法の差異

	計	削除* (%)	追加* (%)	不変 (%)
行末	46	7 (15.2)	12 (26.0)	27 (57.6)
行末以外	20	2 (10.0)	8 (40.0)	10 (50.0)
計	67	9 (13.4)	20 (30.0)	37 (55.2)

*、表7参照

注：『ファウスト初稿』から見た『ファウスト』の差異、台詞が対応する箇所のみ

『ファウスト初稿』： 削除 + 不変

『ファウスト』： 追加 + 不変

！二箇所追加例あり (Urfaust 129) (Faust 481)

！の複数使用例で、不変+変化例あり (Urfaust 18) (Faust 485)

(Urfaust 101) (Faust 454)

Faust. An diesem Pult herang ewacht! (Urfaust 36)

Faust. An diesem Pult herang ewacht: (Faust 389) [削除例, 行末]

この机に凭ったまま、おまえの訪れを待ったことか。

Faust. Auf! bade. Schüler, unverdrossen (Urfaust 92)

Faust. Auf, bade. Schüler, unverdrossen (Faust 445) [削除例, 行末以外]

起て、学徒よ。誓って退転することなく、

手塚訳¹⁵では、「:」が、「.」に、「,」が「.」に、また、「」[句読点なし]が、「,」に変更されていた。

ワーグナーの台詞では、！の追加例は7行中4例(57%)で(追加例:Urfaust 177, 205f, 169, 217; Faust530, 558f, 523:Ach, Ach Gottと verzeiht), すべて行末以外であった。削除例は箴言(Faust 559; 行末)の1箇所のみであった。

Lebenに、！の追加例1例(Urfaust 129) (Faust 481)と、削除例2例(Urfaust 154, 206) (Faust 507, 559)(表7)と、leben!の不変例1例(Urfaust 23; Faust 376)があった。

！の複数使用

！の複数使用例には、Juchheisa! heisa!などの繰り返しの歌(Faust 955, 963, 970)や、同じ言葉の複数使用例(Faust 409, 481), Ach! Weh! Ha!などの感嘆詞を併用している例(Faust 454, 477, 485, 872, 1256, 4515)があった。歌では、！の数が後半の行になるほど、1, 2, 3箇所と多くなっていた。(Faust

表7 『ファウスト初稿』と『ファウスト』悲劇第1部夜での!の用法の差異

『ファウスト初稿』1~248 (248行) → 『ファウスト』354~605 (252行)

! 追加					
行末	zuvor.	(6)	zuvor!	(359)	F
	können,	(11)	können!	(364)	F
	mir.	(38)	mir!	(391)	F
	Sinnen.	(78)	Sinnen!	(431)	F
	tot.	(91)	tot!	(444)	F
	Morgenrot.	(93)	Mogenrot!	(446)	F
	an.	(121)	an!	(474)	F
	Leben.	(129)	Leben!	(481)	F * ³
	nicht.	(133)	nicht!	(485)	F
	deinesgleichen.	(148)	deinesgleiche!	(500)	F
	Gottheit,	(163)	Gottheit!	(516)	F
	ziemen.	(232)	ziemen!	(585)	F
行末以外	ach,	(1)	ach!	(354)	F
	Ach	(39)	Ach!	(392)	F
	ach,	(101) * ²	ach!	(454)	F * ³
	Ach,	(177)	Ach!	(530)	W
	Ach Gott,	(205)	Ach Gott!	(558)	W
	Welt,	(56)	Welt!	(409)	F * ²
	mußt,	(129)	mußt!	(481)	F * ³
	Verzeiht,	(169)	Verzeiht!	(523)	W
	Verzeiht,	(217)	Verzeiht!	(570)	W
! 削除					
行末	herangewacht!	(36)	herangewacht:	(389)	F
	Licht!	(116)	Licht -	(469)	F
	dampft!	(118)	dampft -	(471)	F
	Geist!	(123)	Geist,	(475)	F
	Leben!	(154)	Leben,	(507)	G
	Leben!	(206)	Leben.	(559)	W
	sthet!	(190)	steht -	(543)	F
行末以外	Auf!	(92)	Auf,	(445)	F
	Du!	(144)	Du	(496)	G

F : ファウスト、W : ワーグネル、G : 霊

!の複数使用例 : *²,2箇所, *³,3箇所

954f, 975ff).

同じ言葉の複数使用例では、!の複数使用例が多いが (Faust 409 : Welt! Welt!, 481, 1290, 2242, 2299, 2514, 2730, 3634, 4423, 8432), !の複数使用を避けて、!の単数使用例もある。これには、!を2番目の言葉(後ろの言葉)のみに使用する例 (Faust 929, 1651, 6366, 7507, 7696, 8882, 9412, 11511) と、前の言葉のみに付ける例 (Faust 4666, 7074, 9729, 10807) がある。!の2番目のみの用例は、

悲劇第Ⅰ部と第Ⅱ部の両方にあった。『ファウスト初稿』の！複数使用例で、前の！が削除された例が、悲劇第Ⅰ部にある（Urfaust Kerker 29）、（Faust 4420）。悲劇第Ⅱ部では、後ろに！を付ける例以外に、前に！を付ける例が散見されるが、第Ⅰ部には前のみで！を付ける例は認められなかった。

Faust. Sieh nur, sieh! wie behend sich die Menge (Faust 929),
まあ見るがいい。あんなに活発に群集は〔悲劇Ⅰ部、2番目の言葉に！を使用〕
Ariel. Horchet! horcht dem Sturm der Horen! (Faust 4666)
聞け、聞け、時の神たちの疾風を。〔悲劇Ⅱ部、1番目の言葉に！を使用〕

！の位置が移動する例

！の削除と追加が、一つの台詞であると、！の位置が移動したとも考えられる。このように行末の！が削除され、前の言葉に！が移動する用例は、箴言を含めて、五箇所認められた（Urfaust 919f, 572, 642, Kerker p.418-3）（Faust 3068f, 2720, 2790, 4423）。

Faust. Hör, merk dir dies,
Ich bitte dich, und schone meine Lunge! (Urfaust 919f)
Faust. Hör! merk dir dies-
Ich bitte dich, und schone meine Lunge- : (Faust 3068f)
おい。これだけは覚えておいてくれー
いつまでも言い合いするのは、いやになったー。〔行末の！を前に移動〕

一つの台詞での！の移動ではないが、！の移動に意味があると考えられる台詞があった。ファウストとメフィストの連続している台詞で、ファウストの台詞の！が削除されて、次の行のメフィストに付いている例が、また、マルガレーテの2行の台詞で、1行目の！が？に、2行目の？が！こ入れ替わった台詞があった。

Faust. Und zwar von Herzen!
Mephistopheres. Gut und schön. (Urfaust 907f)
Faust. Und zwar von Herzen.
Mephistopheres. Gut und schön! (Faust 3054f)
愛しているとも。真心からだ。
けっこう、けっこう。〔. と！の入れ替え〕

『ファウスト初稿』では、ファウストの激情がそのままに示され、『ファウスト』では、メフィストの皮肉が強調されていると考えられる。

Gretchen. Was tu ich nicht um deinetwillen!
Es wird ihr hoffentlich nicht schaden? (Urfaust 1205f)
Margarete. Was tu' ich nicht um deinetwillen?
Es wird ihr hoffentlich nicht schaden! (Faust 3515f)
あなたのためなら、わたしどんなことでもします。
けれど、毒にはならないでしょうね。〔!と?の入れ替え〕

『ファウスト初稿』では、素直な乙女の台詞であるが、『ファウスト』では、自分自身を疑い、さらに、相手を責めている台詞である。

考察：

ソシュールは「言語はシニフィアン（能記、記号表記、語の音形）とシニフィエ（所記、記号内容、語の意味）の二つが結びついたもの」と規定している³⁷。言語学は「人間のことばを研究対象とする研究領域である」³⁷。計量言語学（quantitative linguistics）は「統計的な方法をもちいて言語や言語行動の量的側面を研究する学問分

野」である³⁸。ここでは、『ファウスト初稿』と『ファウスト』の感嘆詞と！の用法を検討したが、感嘆詞や！は、意味を強調する時、気分の高揚を示す時や、陽気な歌につけられ、さらに気分が高揚している時は、！が一行に複数使用される場合もある。

計量言語学の研究には、言語単位の認定規定が必要であるが、感嘆詞、感動詞の定義は必ずしも一定ではなく、日本語では独立文節か、あるいは、術語の一部で副詞と考える人もいるようである³⁸。ここでは、岩波独和辞典³⁶での感嘆詞を採用した。！が言語記号であるかは不明であるが、特殊記号を調査する計量言語学の分野もある³⁷。頻度の比較のための分母には、文節として、句読点の有無、種類にかかわらず、行番号の行を用いた。

ゲーテに関する研究は膨大なものであるが、巷間に流布している『ファウスト』の日本語の解説書^{31-35, 40-47}は、伝説、成立史、作品の説明、内容の解釈が多く、言語学的検討や、！の用法についての検討は見当たらない。ここでは学術研究誌の検討はしていないが、徳沢得二（1968）は「ファウスト」研究の展望で、アトキンスの1945年以降からの研究の概要を紹介している（p.586）⁴²。また、木村直司⁴⁷（1985）は「すべての研究を顧慮していない」（p.198）と断った上で、1960年以降のゲーテ研究を紹介し、その方向として、「ゲーテの生涯に関する伝記的事実がほとんど隈なく調査されている現在、その対象は未発表のまま埋もれている草稿の実証的研究と、作品の文学的価値の見直し」をあげている。ただし、いずれも、言語学的検討や、！についてはとくに触れていない。

夏目漱石の『吾輩は猫である』、宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』と、森鷗外の『最後の一句』の標本調査では、品詞構成比率での感動詞の頻度は0%、芥川龍之介の『蜘蛛の糸』は1.0%である³⁷。日本語とドイツ語の文章とでは異なるが、『ファウスト』の感嘆詞の頻度2%である。これは行当たりの頻度で品詞構成比率ではないが、『ファウスト』の台詞は1行あたり、2～5～10字であることから、品詞構成率での感嘆詞の頻度は0.2～0.4～1%程度と考えられる。ゲーテの他の作品や、他の作家との比較をしていないため、この頻度が高いか低いかは不明であるが、『ファウスト』での場面、登場人物で頻度が異なっている。

！の行当たりの頻度は14%であるが、場面によっては7～43%と異なり、とくに、「牢獄」でのファウストの！の頻度は高く、感情が高張しているのに対して、メフィストの台詞は皮肉が多く、！の使用法は技巧的で、皮肉が込められている。座長、主、の台詞には、感嘆詞も感嘆符も付けられておらず、冷静に台詞が述べられている。

ゲーテは後年、『ファウスト初稿』を『ファウスト』に書きかえた時に、「！」を追加、削除、または、位置を変更している。！の追加は彼の気分が高揚していたと考えられるが、とくに、台詞の前の方に！追加している。一方、「！」をその台詞で、何故、使用しなかったか、あるいは、何故、削除したについては、例えば、詩人は牢獄では「！」を減らしているが、一つの理由として、「！」の多すぎる使用や、「！」の複数使用は、かえって、詩の緊張感を弱める場合があると考えたのかもしれない。

台詞が版により異なる点については、編集者がゲーテ手稿の筆記字体をどう判読したかの問題で、どちらが正しいかは、「ワイマールに保存されているゲーテの草稿を直接手にすることのできないゲルマニスト」（木村直司⁴⁷, p. 196）や読者には判断しがたい。「ゲーテの草稿の断片…、非常に読みにくい字句」（p. 195）などの記述がある。ゲーテ手稿の「！」は斜体で書かれており比較的明確であるが、間違いやすい記号として、斜体の「:」や韻文の行を区切る「/」も文中に挿入されている。「;」が「！」（Urfaust 1401）、（Faust 3653）に変わった例がある。また、「！」か「？」か判定しがたい箇所もある（原稿筆跡写真部分）⁴⁰。印刷字体を斜体にした版もあるが（p37）³⁵、多少、印象が異なる。

『ファウスト初稿』と『ファウスト』とで、「！」と「？」とが異なる場合、ゲーテの変更か、編集者の読み方の差異か、どちらが正しいかは必ずしも明らかではないが、「！」が「？」に、（Urfaust 590, 880）、（Faust 2739, 3026）、「？」が「！」に（Urfaust 787, 815, 1356）（Faust 2933, 2961, 3821）に変更している箇所がある。もし、ゲーテの変更とすれば、『ファウスト』の方が、多少、技巧的で加齢の影響も考えられる。ただし、版により異なる場合は（p37）³⁴、編集者の読み方の差異と考えられる。草稿の字句は、意味から判断できる場合もあるが、感嘆符や句読点はどれが正しいかは、判断し難い場合が多い。

日本語訳^{15,28,30}では、原典の「！」を省略、または、他の句読点に変更している箇所がある^{15,27-29}。日本語訳で！や句読点をどうするかは、訳者の判断で、原典に比較的忠実な訳もある一方⁴⁶、日本語に相応しくするための訳者の意図的な変更も考えられる。これらの変更で、意味がかなり異なると考えられる箇所もあるが、訳文からは読者にはその差異はわからない。

日本語訳では、横書きと縦書きとでは異なり、「:」、「;」は縦書きにはならないが、「,」、「.」は、横書きでも縦書きでも変わりはない。一方、「！」は横書き⁴⁶にも縦書き¹⁶にもなるが、印象が異なるようである。語構成でどこまでが1単位かの、「単位の熟合度」も関係するようである³⁶。縦書きの文章の「！」は、横書きの文章の「！」よりも、多少、強調されるかもしれない。韻文と散文、筆記字体と印刷字体の種類でも、「！」の印象は異なる。

手塚訳¹⁵では、AchもOも、訳語は「ああ」が多かったが、一般訳では、「Achはああ、おお（歓喜・驚愕・意外・悲嘆などの自然音）」、「ah!（自然の嘆息音）は、ach!よりも軽い」。「Ach Gottは感嘆の用法で、ああ、おや、さあ大変」、OはO weh!（Faust3712, 4493）のように、「次に他の語を伴うのが常で、一般に感情を示す。ああ、おお、まあ、おや。」³⁶とある〔太字は原文のまま〕。日本語訳では、Ach, Ach!, O, O!の差異は必ずしもはっきりしない。

ゲーテは感嘆詞、!の位置、単数使用か、複数使用などの用法については、十分に注意していたと考えられるが、日本語訳では、これらの点については、あまり考えられていないように感じられる。

!の複数使用

同じ言葉の複数使用例に!をつける場合、どうせ!をつけるなら、前の方が効果的と、ゲーテは高年になってから感じたのだろうか。悲劇Ⅱ部に多い。

!の複数使用例で、「感情の高張を示す命令形」がある。

Faust. Flieh! Auf! hinaus ins weite Land! (Urfaust 65; Faust 418)

さあ、逃げ出せ。広い世界へ出て行け。〔!複数使用例〕

ここの解釈として、「必ずしも、ファウストが事実に於いて屋外に出でんと決したと見る必要はなく」、「希望が希望に止まらず、激しい命令の形に爆発する」との注釈がある（p.165）³³。

同様に解釈される命令形が、以下の台詞で考えられる。

Faust. Werd' ich zum Augenblicke sagen:

Verweile doch! du bist so schön! (Faust 1699f)

おれがある瞬間に向かって、

「とまれ。おまえはじつに美しいから」と言ったら、〔複数使用例〕これは悲劇第Ⅰ部「書齋」の場で、メフィストと賭けをする時の有名な台詞であるが、悲劇第Ⅱ部「宮殿の広い前庭」で、ファウストが同じ台詞を言った直後に死ぬ。そこでは、

Faust. Zum Augenblicke dürft' ich sagen:

Verweile doch, du bist so schön! (Faust 11581f)〔削除例〕

そのとき、おれは瞬間にむかってこう言っている、

「とまれ。おまえはじつに美しいから」と。

丸山武夫（第Ⅱ部 p.107）⁴¹は、「神人唱和の発声となって頂上を極めるにいたる」と注釈している。Ⅱ部では、前のdochの!を削除していることから、ファウストの心はⅠ部より平静と考えられる。主の台詞でも、!はあまり使われていない。従来解説では、「こう言っている、」（Faust 11581）を直説法現在の「darf」ではなく、接続法過去の「dürft'」を用いたことの差異を論じているが（p.136）⁴²、!が削除されている点については触れていない。^{33, 34, 40, 42}

火成論者のアナクサゴラスと水成論者のターレスとの論争では、!の頻度は10/47(21%):15/129(12%)で、

アナクサゴラスの台詞の！の頻度が、ターレスよりやや高いが、有意差ではない ($p > 0.1$)。アナクラゴラスの台詞は激しいが、「ゲーテの気持はターレスの水成説に傾いているように受け止められる」(手塚富雄)¹⁵との注釈がある。『ファウスト』での！の特殊な複数使用例として、唯一、!! が用いられている台詞がある。ただし、手塚訳¹⁵では「!!」ではなく、「.」である。

Thales. Alles ist aus dem Wasser entsprungen!! (Faust 8435) (!! 使用)
万物は水から発生したのだ。

「ファウスト」でのヒポクラテスの箴言の引用と問題点

ヒポクラテスの箴言は、後世、多く引用されているが¹²、「(この箴言は)元はギリシア語だが、ラテン語訳の方がはるかに有名になっていて、しばしば〔芸術は長く、人生は短し〕と引用されている。ヒポクラテスは医学者だから、彼がここで言う技術とは医術のことで、〔医者的一生は短いものだが、医術の生命は長い〕という意味になる。その〔技術〕が〔芸術〕という日本語にされたのは、ラテン語 *ars longa* は英語なら *art is long* で、*art* は〔芸術〕だと安直に理解され、しかもそのうえ、〔技術は長く・・・〕というよりは〔芸術は長く・・・〕とした方が、言葉として意味深長に響くからであろう。しかし、18世紀以前に関しては、*ars* (あるいは *art*) を(芸術)と訳したら、ほとんどの場合誤訳となる」とある(柳沼重剛訳)¹⁹。

「箴言」にかんする注釈

『ファウスト』には、多くの版や注釈があるが^{15, 20-34}、ワーグナーの台詞についてのファウスト研究家の解釈は、ワーグナーの知ったかぶりを皮肉ったと言われている(新渡戸稲造)³¹。

「紀元前四百年頃のギリシアの医者 Hippokrates の格言: *ars longa, vita brevis*. の訳。第四場に於てこの言を Mephisto が繰り返している。この所では術術学的特性を明示するために Wagner をして古典の引用を為さしむ」(青木昌吉)³²。

「学芸は長く、人生は短し (*Ars longa, Vita brevis*) ですな」ヴァーグネルは、西紀前四百年頃のギリシアの大医ヒポークラテス (Hippokrates) の言葉を引用した」(松岡敏幸)³³

「ワグネルの嘆きはたましひなくして技巧に始終するものの必ず逢着せねばならぬ嘆きである。ヒポクラテスの *Ars longa vita brevis est* の訳語なるこの句は、人生は短かけれど芸術は永遠なる生命ありという意味ではなくして、人生は短く而も技術の真諦は容易に捉へ難い事を嘆いたものであって、真に日暮れて道道しの嘆きである」(木村謹治)³⁴。

「Wagner は、古典の教養があることを証明するために、古人の言葉を盛んに引用してみせる。Seneca がラテン語化した Hippokrates の言葉 “*Ars longa, vita brevis*” を、これみよがしに引いたものである “技芸の道を究めつくすべき人生はあまりに短い” というのが、この文句の本来の意味であって、“芸術作品はとこしえに残るが、人の一生は短い” という意味ではない」(高橋義孝)³⁵。

これらの解釈ではほぼ一致して、ワーグナーの知ったかぶりを皮肉ったとしているが、生命と術の順序が逆転しているラテン語訳の箴言を、ヒポクラテスの箴言として引用していると考えられる。いずれも、台詞の順序の逆転についての注釈は示されていない。

Trunz²¹ や Düntzer²⁴ の注釈では、「Wagner の台詞は、“*vita brevis, ars longa*”, すなわち、“*Das Leben ist kurz, die Kunst ist lang*” である」と、ギリシア語原典の順序どおりに引用しているが、逆転についての注釈はない。袖珍版²⁵ の注釈では、「“*Ars longa, vita brevis*” (Seneca) の引用」としているが、セネカは *vitam brevem esse, longam artem* とヒポクラテスの語順どおりに引用しており¹⁷、語順の変動についての注釈はない。

第一の問題点：何故、生命と術の順序が変わったか？ 何故、感嘆符がつけられたか？

ワーグナーがヒポクラテスの箴言を引用したのは、知ったかぶりを皮肉ったことで説明がつくが、生命と術の順序を、わざわざ、逆転して引用した点については、その説明では疑問が残る。著者は、箴言の引用における

語順の変更は、ワーグナーの知ったかぶりを皮肉ったこととは、別の問題と考えた。

『若きウェルテルの悩み』⁴⁸でのギリシア語の知識や、『ファウスト』で、ギリシア語の新約聖書をドイツ語に訳す場面が出てくるように、ゲーテは、ギリシア語に堪能であった。ゲーテはヒポクラテスの箴言のギリシア語原典をメフィストの台詞に、世間に流通している「生命と術」の順序の逆転しているラテン語訳¹⁹をワーグナーの台詞に、使い分けて引用したと著者は推測した¹²。メフィストの台詞では「人生は短い、急げ」の意味でファウストに話しかけているが、ワーグナーの台詞では、術を強調している。

著者は、『ファウスト初稿』では、ヒポクラテスの原典とは異なり、「箴言」の行末に「！」が付け加えられた点に着目した。他人の言葉を引用する場合、そのままの引用と、原典とは異なる意味を持たせた、いわゆる、“ひねった引用”がある。ゲーテがワーグナーの台詞で、箴言の生命と術の順序を変えて引用したのは、術を生命より強調した、いわゆる、“ひねった引用”で、決して間違えた引用ではなく、それを強調するために、行末に「！」を付け加えたと推測した。

第二の問題点：何故、箴言に感嘆詞の Ach Gott が付けられたか？

ワーグナーの台詞 (Urfaust 205f, Faust 558f) には、ヒポクラテスの箴言にはない感嘆詞「Ach Gott」と接続詞「Und」が付けられているが、箴言の二つ前の台詞 (Urfaust 177f, Faust 530f) には、「Ach」と「Und」が付けられており、これに対応していると考えられる。

Wagner. Ach, wenn man in sein Museum gebannt ist,

Und sieht die Welt kaum einen Feiertag, (Urfaust 177f)

Wagner. Ach! wenn man in sein Museum gebannt ist,

Und sieht die Welt kaum einen Feiertag, (Faust 530f) [追加例]

わたくしのように研究室にばかり閉じこもっております、

世間をみるのも、日曜日などにほんのときどき、

Wagner. Ach Gott, die Kunst ist lang

Und kurz ist unser Leben! (Urfaust 205f)

Wagner. Ach Gott! die Kunst ist lang

Und kurz ist unser Leben. (Faust 558f) (箴言) [追加と削除：移動例]

ワーグナーの 530 の台詞には「Ach」が付けられているが、箴言 (558) では、「Ach」でも、「Ah」でも、「O」でもなく、「Ach Gott」が付けられており、何故か、異なっている。

『ファウスト』では、Ach Gott はファウストの台詞には用いられておらず、マルガレーテ、マルテの軽い会話で用いられている。ファウストの Ach は重々しい独白に用いられていることが多いようである。Ach Gott は感嘆的用法で、『ファウスト』での日本語訳は、「大変です」「さあ、たいへん」「そんなこと」「まあ」「さあ!」「いやはや」「さようございますな」「いやはや、何と申しましょうか」「おや、なんだ」など、いろいろであるが、軽い会話で用いられている^{15, 29-31}。また、「さて」、「やっぱり」で、文頭につけられて、熟慮を示すとある⁴⁹。「箴言」には Ach ではなく、Ach よりも軽い意味を持たせて「Ach Gott」をつけたと、著者は考えた。その日本語訳は、「何と申しましょうか」³⁰で良いと考えられる。

第三の問題点：何故、感嘆符や句読点の異なる版があるか？

「,」と「!」とを読み違えることは考え難い。逆も同様である。それにもかかわらず、「lang」、「lang,」と「lang!」と異なる版があるのは、『ファウスト初稿』と『ファウスト』以外に、中間稿ともいえる別の手稿があったのではないかと推測される。「lang」と「lang,」は読み違いが考えられるが、「lang!」と書かれた版もあることから、「!」と読める手稿があったに違いない。

Ach Gott, die Kunst ist lang, Und kurz ist unser Leben! (Urfaust²¹⁻²⁵) (初稿)

Ach Gott! die Kunst ist lang! Und kurz ist unser Leben. (Faust^{26,27}) (中間稿)

Ach Gott! die Kunst ist lang. Und kurz ist unser Leben. (Faust²¹⁻²⁵) (最終稿)

フィッシャアー (桑島健一訳)⁴⁰ は、『ファウスト初稿』と『断片』とで、ファウストと学僕ヴァーグナーとの会話の箇所を比較している。また、「古い原稿」(p.406)³⁵、「旧稿」(p.136)⁴³との比較をしている注釈があり、『ファウスト』にも書き換えがあったと推測されるが、「箴言」についての言及は見当たらない。

著者の『ファウスト中間稿』説はあくまでも仮説に過ぎないが、ゲーテが中間稿で、一時的にせよ「lang!」と「芸術はながく」の台詞に、「!」を付けたとしたら、術を生命より強調したとする最初の推測を、補強する傍証と考えられる。

中間稿での「!」の削除が不完全であったためと推測されるが、ゲーテ最終手稿ではおそらく、「lang,」か「lang!」かの判読が編集者で分かれたため、結局、異なる二つの版が出たと考えた。すべての版がゲーテの手稿から直接編集されたかは不明であるが、「lang,」(ハンプルク版²¹、記念版²²、ゾフィー版²³、国立文学史家版²⁴、袖珍版²⁵)以外に、「lang!」と書かれた版が、2版(プレマー版²⁶とレクラム文庫版²⁷)出版されていることは、「lang!」と書かれた中間稿の存在を推測させるものである。

第四の問題点：何故、『ファウスト初稿』と『ファウスト』とで、感嘆符の位置が異なるか？

「Ach」と「Ach Gott」は「Ach!」と「Ach Gott!」になったが、このように「!」を追加すると、台詞は全体としては、「!」の複数使用となる。この「箴言」は対句で、『ファウスト初稿』での205末の(,)の有無、すなわち、「lang,」か、「lang」であるかも関係するが、この箴言は2行で1台詞である。この箴言は感情の高揚を示すものでも、歌でもなく、また、同じ言葉の複数使用、命令形でもない。ゲーテはこの箴言は、「Ach」や「!」を複数使用するほど重要な台詞ではなく、「Ach Gott!」〔「Ach Gott」と「!」〕と一つの「!」だけで十分と考えたのであろう。

ゲーテは、おそらく、多すぎる「!」の使用は、かえって詩の緊張感を下げると考え、削除したのではなからうか。「箴言」においても、「!」の複数使用を避けるために、台詞の終わりの「!」を削除したため、結果的には、台詞の行末から行の初めに、「!」の位置が移動した、と著者は推測した。

参考文献

1. Hippocrates: Ed. by Jones WHS, Potter P, Loeb classical library Hippocrates, Cambridge, Massachusetts, London, England: Harvard University press 1992, 1995.
2. 大槻真一郎訳編：ヒポクラテス全集。エンタープライズ、東京、1985-1988.
3. 今裕訳編：ヒポクラテス全集。名著刊行会、東京、昭和53年。
4. 小川政恭：ヒポクラテス 古い医術について。岩波文庫、岩波書店、東京、1996.
5. 小川政恭：西洋医学史。真理社、東京、昭和22：66-135.
6. ライオンズ アルバート、ペトルセリ R ジョセフ：ヒポクラテス。小川鼎三監訳、図説 医学の歴史。2巻、東京：学研、1988：193-216.
7. マイヤーシュタイネック・ズートホフ：図説医学史。小川鼎三監訳、24-51、朝倉書房、東京、1996.
8. ジェッター ディーター：西洋医学史。山本俊一訳、48-71、朝倉書店、東京、1996.
9. 二宮陸雄：知られざるヒポクラテス。29, 31, 107、篠原出版、東京、平成2年。
10. 齊藤博：ヒポクラテスの謎。図書印刷、東京、1996.
11. 齋藤博：ヒポクラテス顔貌の色彩検討。埼玉医科大学雑誌 27, 127-134, 平成12年。
12. 齋藤博：ヒポクラテスの箴言「人生は短く、術のみちは長い」について。埼玉医科大学医学基礎部門紀要 10, 61-75, 2004.
13. 齋藤博：ヒポクラテスの医学教育。埼玉医科大学雑誌 31, 137-146, 2004.

14. ゲーテ：詩と真実，わが生涯より，山崎章甫訳，3-15，岩波文庫，岩波書店，東京，1997.
15. ゲーテ：ファウスト．手塚富雄訳，中公文庫，中央公論社，東京，1997.
16. 柴田翔：ゲーテ「ファウスト」を読む．岩波書店，東京，1986.
17. Goold GP: de brevitae vitae, The Loeb classical library edited by G. R Goold.
Seneca moral essays II with an English translation by John W. Basore, 286.
Harvard University press, Cambridge, Massachusetts, London, England, 1996.
18. セネカ：人生の短さについて．茂手木元蔵訳，33刷，9，岩波文庫，岩波書店，東京，1997.
19. 柳沼重剛編：ギリシア・ローマ名言集．第3刷，42，岩波文庫，岩波書店，東京，2003.
20. 斉藤博：アテネの疫病はマールブルグ病，または，エボラ熱か？埼玉医科大学進学課程紀要 8，15-25，2000..
21. Goethe JW: Faust. Verlag C.H.Beck, München, 1972
22. Goethe JW: Faust. Gedenkausgabe der Werke, Brief und Gespräche. 5. Band: Die Faustdichtungen. Artemis Verlag, Zürich, 1962
23. Goethe JW: Faust. Goethe Werke. Herausgegeben im Auftrage der Großherzogin Sophie von Sachsen. 39 Band. Sansyusya, Tokyo, 1897
24. Goethe JW: Faust. Deutsch National-Litteratur. Historisch-Kritische Ausgabe. Herausgegeben von Joseph Kürschner, Sansyusya, Tokyo, 1974.
25. Goethe JW: Faust. Deutscher Taschenbuch Verlag. GmbH & CO. KG, München, 1977
26. Goethe JW: Faust. Verlag der Bremer Presee, München, 1925
27. Goethe JW: Faust. Philipp Reclam jun. GmbH & CO., Stuttgart, 1986
28. ゲーテ：ファウスト．相良守峯訳，45，岩波書店，岩波文庫，東京，1997.
29. ゲーテ：ファウスト．高橋義孝訳，47，新潮文庫，東京，平成9年.
30. ゲーテ：ファウスト．大山定一訳，17，筑摩世界文学大系，筑摩書房，東京，昭和47年.
31. 新渡戸稲造：ファウスト物語，新渡戸稲造全集編集委員会，60，教文館，東京，昭和44年.
32. 青木昌吉：ファウスト注解．47，郁文堂書店，昭和3年.
33. 松岡敏幸：ファウスト研究．57，木星社書院，東京，昭和7年.
34. 木村謹治：ファウスト研究．229，弘文堂，東京，昭和17年.
35. 高橋義孝：ファウスト集注．40，郁文堂，東京，1979.
36. 岩波独和辞典：小牧健夫，奥津彦重，佐藤通次編，第9刷，岩波書店，1959.
37. 風間喜代三，上野善道，松村一登，町田健：言語学．東京大学出版会，東京，2004. 38. 伊藤雅光：計量言語学入門．大修館，東京，2002.
39. 岩淵匡：日本語文法．白帝社，東京，2000.
40. クーノー・フィッシャー：ゲーテ ファウスト論攷 I, III. 桑嶋健一訳，大東出版社，昭和19年，昭和20年.
41. ゲーテ研究会編：ゲーテ ファウスト第一部のために．第三書房，東京，昭和40年．ファウスト第二部のために．南江堂，東京，昭和39年.
42. 徳沢得二：ゲーテ「ファウスト論考」．勁草書房，東京，1968.
43. 大畑末吉：ファウスト論集．早稲田大学出版部，東京，昭和47年.
44. 小塩節：ファウスト ヨーロッパの人間の原型．YMCA 同盟出版，東京，1972.
45. 道家忠道：ファウストとゲーテ．郁文堂，東京，1979.
46. 柴田翔：「ファウスト第I部」を読む．白水社，東京，1997. 「ファウスト第II部」を読む．白水社，東京，1998.
47. 木村直司：ゲーテ研究余滴．南窓社，東京，1985.

48. 高橋義孝：若きウェルテルの悩み。 13, 新潮社, 東京, 昭和 29.
 49. 国松孝二編：独和大辞典, 小学館, 東京, 2000.

Hippocrates' aphorism "Life is short, the Art long" and Goethe's Faust: Quantitative linguistic analysis of exclamations and exclamation marks

I used quantitative linguistic methods to analyze number, single or plural use in a line, and location of exclamations and exclamation marks (!) in Goethe's Faust and in his first manuscript of Faust, called Urfaust. Exclamations in Faust, occurring in 190 of 12,233 lines (2%), were present 130 of 4,735 lines (3%) in the Tragedy Part I, and 60 of 7,498 lines (1%) in Part II, being significantly more frequent in Part I than Part II (chi-squared test, $p < 0.01$). Exclamation marks in Faust, present in 1,764 lines (14%), were 925 (20%) in Part I, and 839 (11%) in Part II ($p < 0.01$). Multiple occurrences of the exclamation mark present 205 lines (2%) in Faust, were present 130 (3%) in Part I and 91 (1%) in Part II ($p < 0.01$). Goethe used many exclamations and exclamation marks with various singular or plural dictions either early or late in a line, possibly to convey important nuances. When he revised Urfaust into Faust, he generally tended to add many exclamation marks early in lines, while eliminating them at the end of a line. Hippocrates' aphorism "Life is short, the Art long" initially was quoted by Goethe in Urfaust in a line for the character Wagner as "Ach Gott, die Kunst ist lang / Und kurz ist unser Leben!".

Thus, Goethe added the exclamation "Ach Gott", the conjunction "Und", and an exclamation mark at the end of the line, also reversing the order of "life and art" compared with phrasing's Hippocrates' aphorism.

Mephistopheles' line in the Faust, however, was "Die Zeit ist kurz, die Kunst ist lang", retaining the same sequence if not the precise wording as that of Hippocrates' aphorism while not adding a final exclamation mark. In Urfaust, apparently to make Wagner stress the art over life, Goethe changed the sequence of these words from that in the Hippocrates' aphorism and added the exclamation mark at the end of the line. When he revised Urfaust into Faust, he added the exclamation mark to follow "Ach Gott!" and omitted it at the end of the line, presumably to avoid redundancy. The exclamation mark consequently was translocated from the end to early in a line. Thus, the aphorism came to be quoted as "Ach Gott! die Kunst ist lang / Und kurz ist unser Leben" in Faust.

Key words : Hippocrates, Goethe, Faust, exclamation mark, Quantitative linguistics

まとめ

ヒポクラテスの箴言「人生は短く 術の道は長い」は、ゲーテの『ファウスト初稿』では、ワーグナーの台詞として、「ああ、術の道は長く／人生は短い！」と、ヒポクラテスの「箴言」に、感嘆詞「ああ」、接続詞「と」を追加し、「術と人生」の順序は逆で、行末に感嘆符がつけられて引用された。『ファウスト』のメフィストフェレスの台詞では、「時は短く、術のみちは長い」と、ヒポクラテスの箴言とは全く同じ言葉ではないが、同じ語順で、感嘆詞と感嘆符はつけられていない。『ファウスト』(Faust)と『ファウスト初稿』(Urfaust)とで、感嘆詞と感嘆符(!)の数、単数、または、複数使用、位置について、計量言語学(quantitative linguistics)検索を行った。感嘆詞は190／12,237行(2%)中、悲劇Iは130／4,735(3%)、悲劇IIは60／7,490(1%)、感嘆符は1,764(14%)で、悲劇Iは925(20%)、悲劇IIは839(11%)、感嘆符の複数使用は205(2%)中、悲劇Iは114(3%)、悲劇IIは91(1%)で、いずれも悲劇Iが悲劇IIより高頻度であった(X²検定, $p < 0.01$)。ゲーテは多くの感嘆詞と感嘆符を単数、または、複数使用、あるいは、台詞の始め、あるいは終わりに

ど、いろいろな語法で使用していた。ゲーテは『ファウスト初稿』を『ファウスト』に書きかえたときに、多くの感嘆符を行の前の方に挿入し、行末の感嘆符を削除する傾向にあった。箴言では、術を人生より強調するために、ゲーテは人生と術の順序を変え、台詞の最後に感嘆符を付けたと、著者は推測した。ゲーテは『ファウスト初稿』を『ファウスト』に書きかえた時に、“ああ！”に感嘆符を挿入したが、おそらく、複数使用を避けるために行末の感嘆符を削除したと考えられる。結果的には、台詞の行末から初めの方への、感嘆符の転移が起きた。かくして、『ファウスト』では、「ああ！術のみちは長く／人生は短い」と引用された。